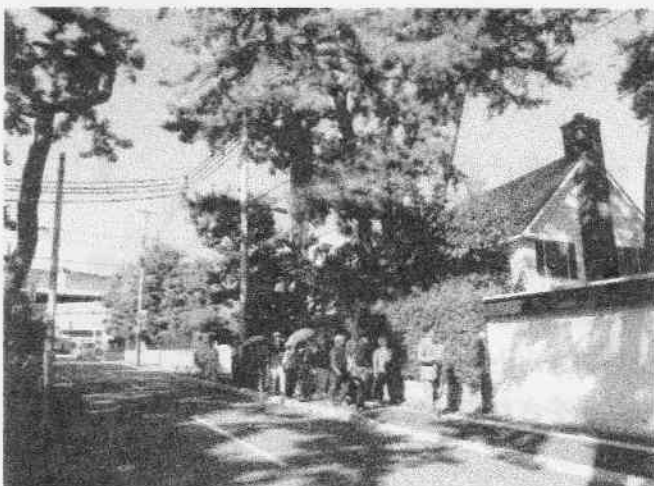


## 市外タウンウォッチング——芦屋市



秋の市外タウンウォッチングは、関西のトップブランド・芦屋市を訪問しました。

10月19日、街歩きには絶好の快晴の日で、参加者が19名となりました。最初に芦屋市役所都市環境部都市計画課の方から、芦屋市の景観形成の取り組みの沿革や現状の説明を受け、質疑応答の後、市役所を出て「芦屋川南特別景観地区」を1時間半に亘り案内していただきました。



この場所は、JR線以南の芦屋川沿岸の街区 約22.5ヘクタールの地域です。芦屋市では、芦屋市全域を景観法で定める「景観地区」に指定されていますが、芦屋川沿岸は、市民にとって身近で親しみのある場所であると共に、個性と風格のある美しい景観を持つ市を代表する重要な地域と位置付け「特別景観地区」に指定されています。

この地域は太平洋戦争以前からの住宅地で、大きな邸宅がまだたくさん残っていて、歴史を感じさせられました。大邸宅が売られ集合住宅になっているところがありましたが、エントランス周りは、樹木が茂り周辺のまちなみに調和するようしつらえてあり、それが集合住宅であることは、説明を受けないと分からないという雰囲気になっていたのには感心しました。芦屋市民は、景観やみどりに関する意識が非常に高く、これらを守る行動は、行政の規制よりも、町内会などの市民サイドの力が大きいとのことをお話しを聞き、さすが芦屋市と思いました。



阪急芦屋川駅でいったん解散、その後、有志で、ヨドコウ迎賓館—旧山邑家住宅（フランク・ロイド・ライト設計、国の重要文化財）を見学しました。

末筆になりましたが、ご多忙の中、多人数を長時間、ご案内いただきました芦屋市に厚くお礼申し上げます。

（事務局 片岡正彦）

”地域の子供たちを守り街の美化を”

## 金平一夫さんの活動

坊島 3丁目のハイムタウンは、昭和 53 年頃に造成開発された 2,3連棟の中規模セミ集合住宅群で、阪神間に勤める人々が入居した。住宅街の小公園にも子供たちの声が溢れ、子供会も活発に活動していた。

やがて、子供達も成長し、勤務や結婚などで、街から離れていった。一方、多くの住民は勤めを終えて第一線を退き、趣味を楽しんだり、体力の維持にスポーツや散歩を続けている。一方、蓄積された職能を活かして他の仕事をしたり、ボランティア活動で地域に貢献している。概ね箕面の街では、何処でも見られる人々の暮らしです。

こんな、中で金平さんは「地域のことは、地域で」をモットーに、毎朝通学路に立って、児童の道路横断の安全を図って、暑い日差しの中でも、雨の日も風の日も、木枯らし吹く日も、学校の休み以外は、毎日定時に街路に立って、子供たちの無事を祈って優しい声を掛けておられる。

僅か、10分程の時間だが、宮沢賢治の詩同様 ”雨にも負けず、風にも負けず……………” を毎日、毎年も続けておられる。生身の人間がなかなか出来ることでは無い。

また、金平さんは「地域のことは、地域で」を実践する為、地域の方々と近くの段々公園の清掃、花壇造りを続けておられる。また鍋田川に蛍の飛び交う姿を想い、”鍋田川へ蛍を呼び戻そう会”にも参加され、鍋田川の清掃活動を皆さんと頑張っておられる。

読者の皆さんは、此の記事を読んで、この様な活動をされている人は、自分の近くに沢山居られると、言われる方もあるでしょう。

皆さんの地域で、沢山の人が「地域のことは、地域で」を合言葉に、行政に頼らず、出来ることを黙々と活動する人が、多くなることを願っています。



☆嬉しいお知らせ: まちなみ通信 40 号 (2010.7発行) 本欄で紹介した ”箕面ホテルを守る会” が、おおさか環境賞・準大賞を受賞されました。(8/31 表彰式)

永田 誠一

私の生まれた豊能郡庄内町は、一面の田圃や畑で、唱歌“春の小川、おぼろ月、めだかの学校、村祭り”等は、ここを歌っていると思うほどでした。戦後の厳しい時代でしたが、心豊かに過ごせた。6年生の頃庄内駅が出来、豊中市と合併して現在の様な町になりました。昔の面影はありませんが、大変懐かしい所です。

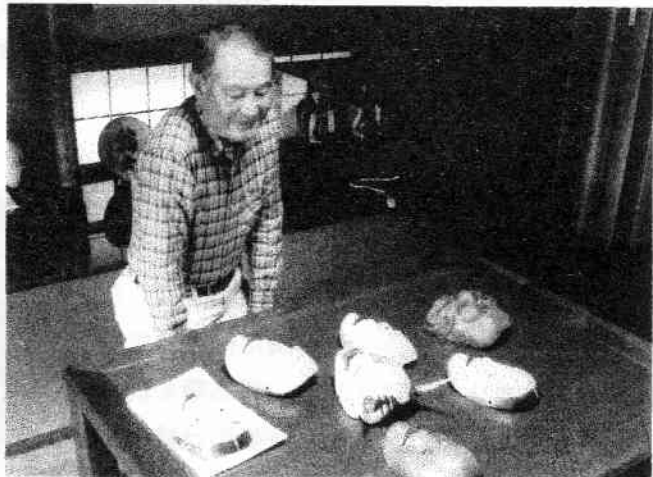
昭和40年春、平和台に移り住みました。母が箕面出身で、澄んだ空気、景色の美しさに、私達を箕面に住ませ様と思っていたのですが、最初は“山”に来たと思った。家から見る町は緑が多く、遠くは生駒山・二上山・大阪港・神戸方面の眺望がすばらしく、夜景は特に美しかった。田植えの時期、阪急の線路沿いは田圃が多く“蛙”の声がすごかったことが、耳底に残っています。

以前は遠く緑の中に大阪城がよく見えていたのに、現在は高層ビルに囲まれて全く見えなくなってしまった。今後もどんどん大阪の眺めは変わっていくだろう。また、町が開発され、建物も多くなり景色が変わってきました。しかし、その分灯が増え夜景が一層美しくなった様に思います。この様な状態がいつまでも続いてほしいと望んでいます。

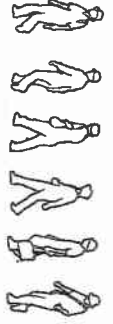
家の近くもマンションが出来、変化してきました。近隣の人達のご協力により、違和感もなく、むしろ周囲と調和し、新しい美しさすら感じます。

隣の空地は、初め背高粟立草が繁り、母が「箕面に長く住んでいたが、こんな花見たことない」と持ち帰り、実家の庭に植えて大騒ぎになったりしました。その後空地が松林になり“狸”が住む様になり、「オーイ狸ちゃん」と声を掛けると、声を覚え写真を撮らせる様に慣れ、やがて子狸3匹も生まれ、母狸の献身的な子育て、夕方狸一家が木陰で団欒する様子などを見て感動したり、楽しんでいました。今は松林もなく、狸も姿を消した。

趣味として長く能面作り、漆塗りをされていて、家に居ることが多く、光明寺の“銀杏”が美しいと云われても見に行かず、半町の親戚を訪れても“紅葉橋”すら知らず、町のことに無関心でした。しかし、パネル展で箕面には素敵な場所が沢山あることを知り、「みのお市民まちなみ会議」に入会しタウンウォッチングに参加しています。町の歴史的に貴重なもの、美しい場所に沢山出会います。小さな路地で可憐な花を見つけたり、川岸に自然の花が育って一面に咲いている風景など、家で花作りを夫婦でしていますが育成には大変で、種子が飛んで自然に咲いている方が、美しく元気の良い時がしばしばあり、感動と新鮮さを感じます。毎月のタウンウォッチングを楽しみに出来るだけ長く参加して、箕面の色々なものに出会いたいと思います。



町は変化して行きますが、大切なものを残して、住みやすい安らぎの町であってほしいと強く願います。



# タウンウォッチング

私達の住む美しい『みのお』を  
再発見しましょう

みのお市民まちなみ会議では、年間 8回タウンウォッチングを行い、みなさんと一緒に街を見て歩いております。参加自由ですので、歩きながら、新しい発見をしましょう。箕面にも歴史があり、素敵な街並みが沢山あります。しかも、街は刻々と変化していて、驚かされます。

前号に引き続き、街歩きのダイジェストを特集します。探訪、散策の供として参考にして下さい。なを、前号の実施時期は、全て 2010 年です。印字ミスで 2011 年と誤記したことを心からお詫び致します。

まちなみウォッチング 第51回

池田市室町など

2010. 9. 18

## 池田室町から小林一三記念館を訪ねる

ウォッチングコース

歩行距離 約 3.6Km

池田駅 → 呉服神社 → 室町倶楽部 → 室町住宅 → サカエマチ商店街 → 落語みゅーじあむ → 池田文庫 → 小林一三記念館 → 池田駅

池田駅を出発して、線路沿いに川西方向に進むと、右手に鳥居があり、**呉服神社**（くれは）境内へ進む。応神天皇の御代、猪名津彦命が呉の国より呉服、綾織を伴って帰国した。二人は機織裁縫の技術を我が国に伝え、呉服姫の没後、神社が創建された。絹布類を呉服と称する因となった。なお、綾織姫は綾羽町の伊居太神社に祀られている。神社の社紋は「糸巻」で非常に珍しい。



阪急線は、当時の町の中心街（能勢街道沿い）から外れた、田圃の中だった。この地域に



明治 43 年、室町住宅の分譲を開始した。呉服神社の周辺に総面積 2万 7千坪、2本の通りと直交して 10 本の通りを作った。一区画 100坪程で、4 種の通勤者向けの住宅、価格は 2,500円から 1,800円で販売された。頭金 50 円、残金を 10 年間の月賦方式だった。さらに、コミュニティセンターとして、室町倶楽部の建物が用意され、娯楽の場を提供し、自治組織の結成を援助

した。さらに購買組合を設置して生活必需品の確保する、治安の為に巡査派出所の設置など、住宅だけでなく総合的な地域開発を試みた。現在も当時の面影を残す住宅が、所々に残っていた。

サカエマチ商店街は、アーケードに覆われて、駅前からかつての街の中心、能勢街道まで続く古くから賑わっている。落語の町に因み、落語のネタなどをもじった、商品を並べたりして工夫している。珍しく駅の西側を除いて、大型スーパーが進出していないことが、



多くのシャッター通りとの違いだろう。落語みゅーじあむは、能勢街道面して開設された。「池田の猪買い」「池田の牛ほめ」など上方落語のネタも多く、館内に高座があり、落語会や、入門講座が開催される。沢山の資料や図書、映像もあり、池田市の町おこしの中心をなしている。

城山の近く、小林一三記念館は、阪急の基礎を作り、宝塚歌劇団、阪急百貨店などを創設した小林一三の旧宅で、居室や茶室を公開したもので、多くの資料、写真、映像



などが展示されていた。近くの池田文庫、美術館など興味が尽きない。午前中で一旦解散し、希望者がインスタントラーメン発明記念館を見学した。昭和33年安藤百福によって発明されたチキンラーメンが発展し、今や世界中に広まり、宇宙にもお供したりする。多くの資料が展示され、製造体験も出来る楽しい施設だった。





まちなみウォッチング 第52回

## 止々呂美の秋を満喫

2010.10.16

秋祭りの準備風景、栗拾いなどを楽しむ

ウォッチングコース

歩行距離 約 2.5Km

止々呂美南 B/S → 農協広場（神輿の飾りつけ、祭囃子の鑑賞）→ とどろみ体験農園  
→ 止々呂美南 B/S

白島 B/Sをバスに乗って出発して、箕面グリーンロードの長いトンネルを抜けると、風景が一変して、緑の山々に囲まれた止々呂美の里に出た。バスを降りて旧道を北上し農協の前に出る。前庭に秋祭りに引かれる地車が



据えられ、十数人の若者? が集まり、杉の枝葉を屋根や柱を飾り付けていた。止々呂美神社の祭礼で、地車は集落を巡行する。私たちの見学に、鉦や太鼓でお囃子を披露して頂いた。巡行する際、「打ってくれー、打ってくれー」「祝いせーの」「も一つせーの」の掛け声で回るそうだ。

懐かしい村祭の雰囲気満喫した一行は、旧い摂丹街道を辿り、とどろみ体験農園に到着する。椎茸がほだ木から傘を広げている様子、炭焼き窯、懐かしい「あけび」の実を見たりし、メインの「栗ひろい」に興じた。傾斜のある栗林の下に、大きな丹波栗が落ちていた。しかし、初めは慣れないのか、「何処に有るの」「ちっとも無いわ」

